

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 中心市街地活性化の目標及び目標指標

高山市第八次総合計画に掲げた将来像「人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち 飛騨高山」を感じられる中心市街地の構築を目指して、次の方針に基づく取り組みを計画的に推進するとともに、方針ごとの目標及びその達成状況を図るための目標指標を設定し、定期的にフォローアップを行うことで確実な事業実施へとつなげる。

基本方針	目標	目標指標
1 誇りに思える 「暮らしたいまち」づくり	居住人口の維持	中心市街地への 転入・転居者数
2 魅力あふれる 「訪れたい、巡りたいまち」づくり	来街者数の増加	歩行者通行量
3 活力ある 「働きたい、チャレンジしたいまち」づくり	営業店舗数の増加	中心商店街 営業店舗数

[2] 計画期間の考え方

本計画の計画期間は、令和6（2024）年4月から令和11（2029）年3月までの5年間とする。

令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
計画期間（5年間）				

[3] 基本方針ごとの目標指標及びフォローアップの考え方

(1) 基本方針1 誇りに思える「暮らしたいまち」づくり

「誇りに思える『暮らしたいまち』づくり」の効果を検証するために、「居住人口の維持」を目標として設定する。また、目標指標を、高山市住民基本台帳における各年度の「中心市街地への転入・転居者数」とする。

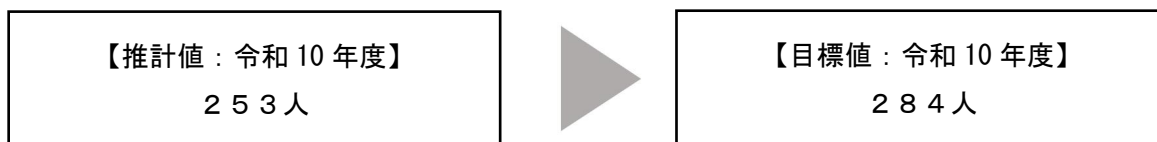
目標指標名	基準値 (令和4年度)	推計値 (令和10年度)	事業による 増加数	目標値 (令和10年度)
中心市街地への 転入・転居者数	353人	253人	31人	284人

① 推計値の算出

本指標については、平成27年度以降の高山市住民基本台帳の異動人口の実績値から、中心的な分布傾向を基に回帰直線を描くトレンド関数を用いて、特段の方策を講じない場合の将来推計値を算出する。

② 目標値の設定

計画の掲載事業により見込まれる具体的な成果を推計値に積み上げて、目標年度における目標値を定める。



【目標値の積算】

積算根拠	数値
ア 若者地元就職支援補助金	21人
イ 空き店舗等活用支援事業	4人
ウ 結婚新生活支援補助金	6人
エ 「飛騨高山暮らし案内人」制度の運営	—

ア 若者地元就職支援補助金による効果（実施時期：R5～）

市内就職する若者を対象とした奨励金の支給及び市内のアパート等の契約時に必要な初期費用を助成する支援制度により、将来を担う若者の地元就職・定住を促進するとともに、若者の生活を支援することで、中心市街地への転入・転居者数が21人増加するものと見込まれる。

申請者 90 人 (※1) × 区域内居住者の割合 17% (※2) × 世帯平均人数 1.4 人 (※3) = 21 人

※1 H29～R4 実施事業「若者定住促進事業（家賃補助）」の年間平均申請者数

※2 若者定住促進事業の申請者に占める中心市街地区域内居住者の割合

※3 R4 若者定住促進事業の受給者の世帯平均人数

イ 空き店舗等活用支援事業による効果（実施時期：R6～）

空き家・空き店舗を活用する所有者や居住者、事業者、商店街等に対し改修費・家賃等の支援を行うことにより、店舗兼用住宅の空き店舗部分を分離し貸し出すことや、1階で小さな商いをして2階で暮らす職住一体のライフスタイルを促進することで、中心市街地への転入・転居者数が 4 人 増加するものと見込まれる。

申請者 2 人 (※1) × 世帯平均人数 2.0 人 (※2) = 4 人

※1 新規事業のため推計

※2 R5.3.31 中心市街地に含まれる町丁の人口/世帯数の平均

ウ 結婚新生活支援補助金による効果（実施時期：H31～）

市民が安心して結婚及び子育てできる環境を整備するため、経済的な支援を必要とする新婚世帯に対し住居費、リフォーム費用、引越費用を支援することで、中心市街地への転入・転居者数が 6 人 増加するものと見込まれる。

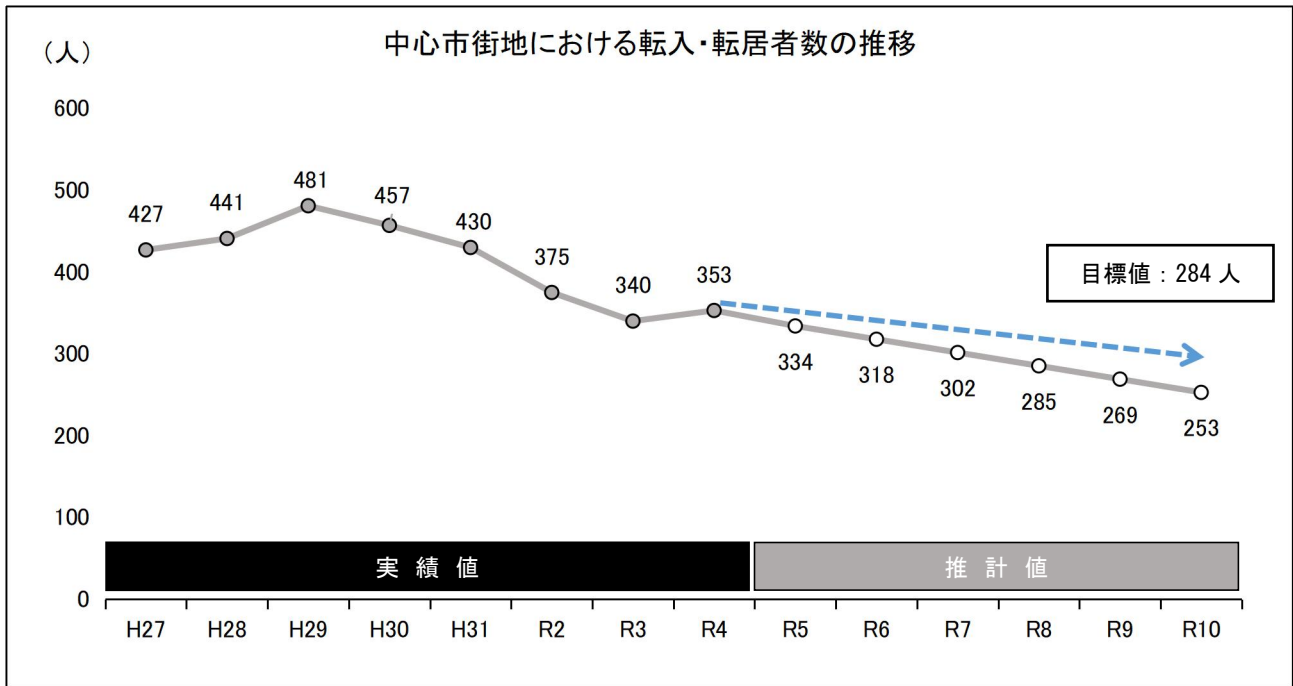
申請者 38 人 (※1) × 区域内居住者の割合 8% × 世帯人数 2 人 = 6 人

※1 H31～R4 年間平均申請者数

※2 H31～R4 の申請者のうち、新居が中心市街地内の割合

エ 「飛騨高山暮らし案内人」制度の運営による効果（実施時期：R4～）

移住を希望する人が安心して移住を決断し、移住後も地域に溶け込みながら楽しく安定した生活ができるよう、移住コーディネーター「飛騨高山暮らし案内人」制度を運営し、移住経験者や地域の方からの相談支援を受けられる体制を構築して、移住者の定住につなげる。（積算数値なし）



③ フォローアップの時期及び方法

【フォローアップの時期】

本指標にかかる数値は、毎年度の高山市住民基本台帳の異動人口とし、各事業の進捗や目標値の達成状況についてのフォローアップを翌年度の4月～5月に行う。

【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から実績値に対する検証を行うが、各事業の効果以外の要素が認められる場合は別に分析する。

また、目標設定に用いた各事業の計測値を元に、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

【事業ごとの計測値】

事業名	計測値
ア 若者地元就職支援補助金	本事業による申請者数
イ 空き店舗等活用支援事業	本事業による申請者数
ウ 結婚新生活支援補助金	本事業による申請者数

【フォローアップに基づく対応】

毎年、各事業の進捗及び目標値の達成状況を検証し、その検証結果を定期的に中心市街地活性化協議会に報告するとともに、必要に応じて事業の追加や事業内容の変更などの目標達成に向けた改善措置を講じる。

(2) 基本方針2 魅力あふれる「訪れたい、巡りたいまち」づくり

「魅力あふれる『訪れたい、巡りたいまち』づくり」の効果を検証するために、「来街者数の増加」を目標として設定する。また、目標指標を、A I 顔認識システムによる人流量計測（J R 高山駅観光案内所前、飛騨高山賑い交流館「大政」前、古い町並の3箇所）における「歩行者通行量」の各年度1日あたりの平均値とする。

目標指標名	基準値 (令和4年度)	推計値 (令和10年度)	事業による 増加数	目標値 (令和10年度)
歩行者通行量	10,192人	11,760人	198人	11,958人

① 推計値の算出

本指標については、(株)まちづくり会社が毎年11月(平日、休日各1日)に実施している「歩行者通行量調査」の平成20年度から令和4年度までの実績値から、中心的な分布傾向を基に回帰直線を描くトレンド関数を用いて、令和4年度におけるA I 顔認識システムによる人流量計測の実績値を基準に推計値を算出する。

② 目標値の設定

計画の掲載事業により見込まれる具体的な成果を推計値に積み上げて、目標年度における目標値を定める。



【目標値の積算】

積算根拠	数値
ア 飛騨高山にぎわい交流館「大政」運営事業	24人
イ 市営駐車場市民割引事業(実証実験)	150人
ウ 車両流入抑制事業(自家用車割引)	24人

ア 飛騨高山にぎわい交流館「大政」運営事業による効果(実施時期：R4～)

R4年4月、コロナ禍の中オープンした「大政」において観光案内や周辺地域の情報提供等を行うことにより、下町エリアを中心とした中心市街地の回遊性向上と滞在時間の延長、賑わいが創出され、同時に商店街活性化支援事業(商店街等が実施するイベントやSNS・HP作成等に対する支援(実施時期：R6～))による、新たなイベント開催や広報の強化が、中心市街地への来街機会の創出につながり、歩

行者通行量が 24人 増加するものと見込まれる。

$$87,798 \text{ 人} (\text{※1}) \times 10\% (\text{※2}) = 8,779 \text{ 人/年} \rightarrow \underline{24 \text{ 人/日}}$$

※1 R4年間利用者数

※2 増加率推計

イ 市営駐車場市民割引事業（実証実験）による効果（実施時期：R6～）

中心市街地の中心にある市営駐車場について市民割引を実施することにより、市民の来街機会が増えることで、歩行者通行量が 150人 増加するものと見込まれる。

$$50 \text{ 台} (\text{※1}) \times 1.5 \text{ 人} (\text{※2}) \times \text{往復} = \underline{150 \text{ 人/日}}$$

※1 新規事業のため推計（対象市営駐車場の1日あたりの平均空車台数）

※2 1台あたりの乗車人数推計

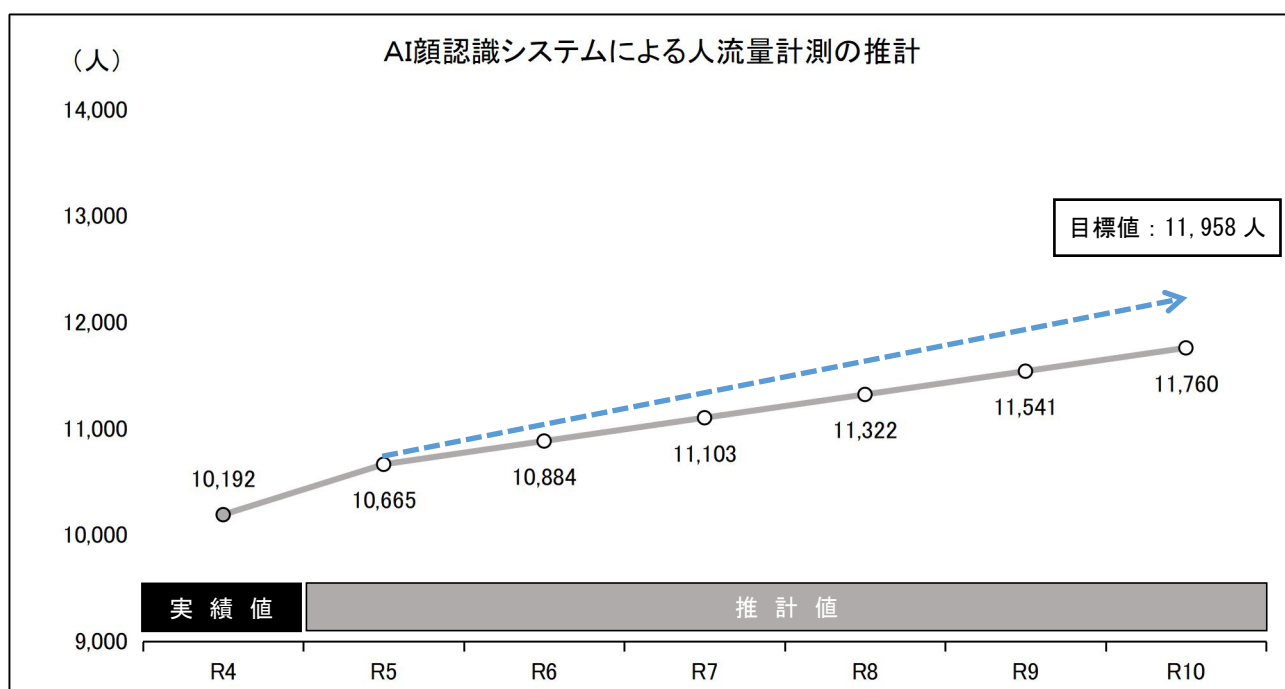
ウ 車両流入抑制事業（自家用車割引）による効果（実施時期：R2～）

市街地外縁部駐車場（天満駐車場・不動橋駐車場・高山駅西駐車場）に駐車し、観光特化型バス（匠バス）を利用した場合の駐車料金の割引（3時間無料・普通車のみ）を実施することで、歩行者通行量が 24人 増加するものと見込まれる。

$$2 \text{ 台} (\text{※1}) \times 2 \text{ 人} (\text{※2}) \times \text{往復} \times 3 \text{ 箇所} = \underline{24 \text{ 人/日}}$$

※1 1日あたりの駐車料金割引見込み台数

※2 1台あたりの乗車人数推計



③ フォローアップの時期及び方法

【フォローアップの時期】

本指標にかかる数値は、AI顔認識システムによる人流量計測結果とし、各事業の進捗や目標値の達成状況についてのフォローアップを翌年度の4月～5月に行う。

【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から実績値に対する検証を行うが、各事業の効果以外の要素が認められる場合は別に分析する。

また、目標設定に用いた各事業の計測値を元に、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

【事業ごとの計測値】

事業名	計測値
ア 飛騨高山にぎわい交流館「大政」運営事業	本事業による利用者数
イ 市営駐車場市民割引事業（実証実験）	本事業による利用者数
ウ 車両流入抑制事業（自家用車割引）	本事業による利用者数

【フォローアップに基づく対応】

毎年、各事業の進捗及び目標値の達成状況を検証し、その検証結果を定期的に中心市街地活性化協議会に報告するとともに、必要に応じて事業の追加や事業内容の変更などの目標達成に向けた改善措置を講じる。

(3) 基本方針3 活力ある「働きたい、チャレンジしたいまち」づくり

「活力ある『働きたい、チャレンジしたいまち』づくり」の効果を検証するために、「営業店舗数の増加」を目標として設定する。また、目標指標を、(株)まちづくり飛騨高山が毎年実施している「営業店舗、空き店舗調査」の各年度における「中心商店街営業店舗数」とする。

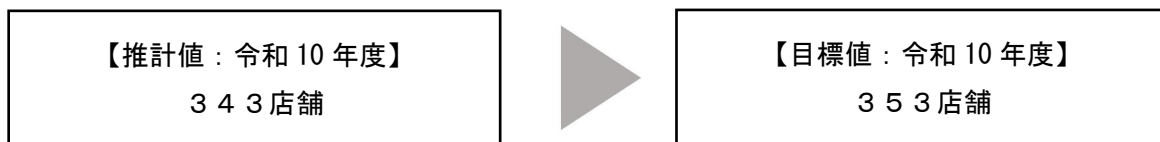
目標指標名	基準値 (令和4年度)	推計値 (令和10年度)	事業による 増加数	目標値 (令和10年度)
中心商店街 営業店舗数	350 店舗	343 店舗	10 店舗	353 店舗

① 推計値の算出

本指標については、(株)まちづくり飛騨高山が毎年実施している「営業店舗、空き店舗調査」のうち、中心商店街における営業店舗数の平成20年度以降の実績値から、中心的な分布傾向を基に回帰直線を描くトレンド関数を用いて推計値を算出する。

② 目標値の設定

計画の掲載事業により見込まれる具体的な成果を推計値に積み上げて、目標年度における目標値を定める。



【目標値の積算】

積算根拠	数値
ア 空き店舗等活用支援事業	10 店舗
イ 総合的な空き家、空き店舗活用促進事業	—

ア 空き店舗等活用支援事業による効果（実施時期：R6～）

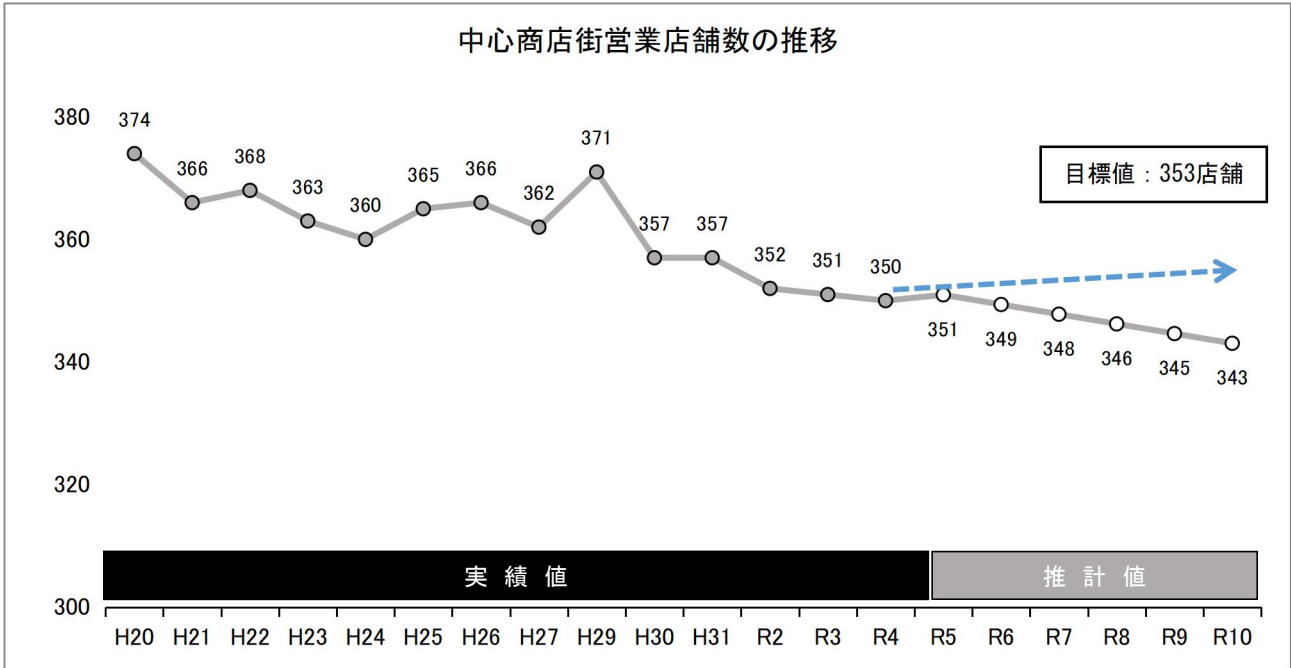
中心市街地の空き家・空き店舗を活用する所有者や居住者、事業者、商店街等に対し改修費・家賃等の支援を行うことで、中心商店街営業店舗数が毎年2店舗増加することが見込まれることから、5年間で10店舗増加するものと見込まれる。

申請者 12 件－廃業者 10 件（※1）×5 年間＝10 店舗

※1 店舗の入れ替わりを含む

イ 総合的な空き家、空き店舗活用促進事業による効果（実施時期：H27～）

中心市街地内の物件所有者に対する意向等の調査を行うとともに、中心市街地で新たに起業しようとする人や居住しようとする人などの希望する物件情報を聞き、空き家・空き店舗の情報を提供する。（積算数値なし）



③ フォローアップの時期及び方法

【フォローアップの時期】

本指標にかかる数値は、毎年度実施する店舗数調査による中心商店街における営業店舗数とし、各事業の進捗や目標値の達成状況についてのフォローアップを翌年度の4月～5月に行う。

【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から実績値に対する検証を行うが、各事業の効果以外の要素が認められる場合は別に分析する。

また、目標設定に用いた各事業の計測値を元に、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

【事業ごとの計測値】

事業名	計測値
ア 空き店舗等活用支援事業	本事業による申請者数

【フォローアップに基づく対応】

毎年、各事業の進捗及び目標値の達成状況を検証し、その検証結果を定期的に中心市街地活性化協議会に報告するとともに、必要に応じて事業の追加や事業内容の変更などの目標達成に向けた改善措置を講じる。